

# 平成30年度茅ヶ崎市バリアフリー基本構想協議会

## 第3回市民部会資料

### —目 次—

#### 報告事項

- ・平成30年度第2回市民部会の振り返り・・・1

#### 協議事項

- ・リーフレットの構成等について・・・6

# 報 告 事 項



平成30年度第2回市民部会の振り返り

## ■「市民部会の取組について」における主な意見

### ○出前講座等について

- 出前講座は、障害者ことを広く知ってもらうことができるため良いと感じている。学生が福祉に係りたいという希望を持つことや、声をかけてくれるようになること、障害に興味を持ってくれること等がある。
- 最近では、金融機関や商業施設から出前講座の依頼を受けることがあり、車いす等の器具を使用した体験学習的なものを実施している例がある。
- 知的障害や精神障害、発達障害等の目に見えない障害はとっつきにくいところがあるため、工夫が必要である。
- 実施する学校は継続して実施しているが、そうでない学校は全く実施していない。出前講座に積極的に取り組んでいただくには、先生等の立場の方が障害に関心を持つことが重要である。
- 各学校において、出前講座を実施する時期が重なっていることから、当事者である講師に負担がかかっている。
- 学校では、カリキュラムが決められているために新しいメニューを入れられないと聞いている。総合的学習はある程度自由に学習できる時間であったが、徐々にその時間が減っているようである。

## ■「市民部会の取組について」における主な意見

### ○障害理解について

- 出前授業において、子どもから素朴な質問を受けることがある。ちょっとした疑問をお互いに共有することから、障害を知ってもらうことに繋がると思う。
- 障害を理解することは非常に難しいことである。理解するためには、当事者と接触する機会を増やすことが最も重要であると考えている。接触することによって、普通の人であり対等だということが分かる。
- 小学生は当事者と接触するチャンスが多く、大人は非常に少ないと思う。商店街等、働いている大人へのアプローチも効果的であると思う。
- 自分が良いと思うことをしても受け入れられるとは限らないため、障害の有無にかかわらず、「色々な人がいる」というくらいの気持ちをお互いに持つことが大事である。
- 根底にあるのは「人と人」であるため、求められるものはケースバイケースである。「この障害だからこういう助けが必要」と思い込むのではなく、その人が助けが必要かどうかを考え、必要であれば「その時に必要なこと」を考えることや本人に聞くことが重要である。

## ■「リーフレットの作成状況について」における主な意見

### ○レイアウト及び掲載内容について

- リーフレットを見ていただきたい相手を考慮した内容やレイアウトにしたいと考えている。
- もう少し簡単にした方が良い。1ページ目を一生懸命読んだとしても、その先を読みたいとは思わない。
- イラスト等を入れることにより、ビジュアルと言葉の両方から理解を促すことができる。
- 茅ヶ崎らしさをもっと打ち出した方が良い。
- 説明的で場面が限られているため、アンケートの集計のように感じる。当事者の生の声を理解してもらうものであるため、年齢や性別、障害種別の情報は不要ではないか。
- このような取組は良いが、読まないと思う。作製したリーフレットを、テキストとして使用してはいかかがか。ボランティアの方等は積極的に活動しているため、勉強会を実施することは非常に良いと思う。

## ■「リーフレットの作成状況について」における主な意見

### ○その他

- 本来は健常者対健常者も含めるものであると思うが、一番目立つのが当事者対健常者の心のバリアフリーであると感じている。
- 最終的には「人と人との思いやり」を目指したいが、その過程で「障害」というラベルを使った形で理解していく必要があると考えている。
- みんな欠点を持っていて、お互いに付き合っていく世の中であることをどのようにうまく表現するかが大事である。

# 協 議 事 項



リーフレットの構成等について

**多くの思いやり**  
（共生社会の実現）

当事者を含む全ての人が、障害等の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会を実現する

**少しの思いやり**  
（合理的配慮の実施）

当事者等が置かれている状況を踏まえ、社会的障壁の除去のための手段や方法について、必要かつ可能な範囲で柔軟に対応する（合理的配慮）

**少しの気配り**  
（障害に対する理解）

障害に関する情報を習得し、様々な当事者の言動等を理解するとともに、少しの気配りで意識を知識に変える

**少しの意識**  
（障害に対する気付き）

「障害」について触れる機会を設け、身近な地域で当事者が生活していることに意識を向ける



## リーフレット作成における必要な検討事項

- ・ これまでの広報ツールやイベント等では、対象者を「全ての人」としていたことから、ターゲットが定まらず曖昧な作りとなってしまう、結果として効果的な訴求力を有していなかったと考えられる。
- ・ 既存の広報ツールでは、専門的な視点で漏れなく幅広い情報が掲載されていたため、一般の方には親しみにくいものとなっていたと考えられる。
- ・ 以上より、次の項目について検討する。

	項目	検討事項
①	ターゲット	年齢、性別、職業、地域
②	手に取ってもらう	表紙のデザイン、ページ数
③	読み進めてもらう	ページ数、情報量、レイアウト
④	理解してもらう	掲載内容、情報量、茅ヶ崎らしさ
⑤	その他	